

領域2 高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上(区分B)

レファレンスツールの評価

1 はじめに

- 自己紹介
- 本日のプログラム

2 レファレンスツールの評価のねらいと視点

- ・利用者が求める資料や情報を迅速かつ適切に案内するためのレファレンスツールとは?
- ・目的と場面にあったレファレンスツールを適切に選択し、活用する技術を身につけるには?
- ・ツール評価を生かして、レファレンスコレクションを一層豊かなものにするには?
- ・ハイブリッド図書館といわれる今、急速な変化に対応したレファレンスサービスの技術や能力向上、情報の共有化を図るための自分なりの日常的工夫とは?

3 2004年度 受講者アンケート実施結果

事前アンケート主旨:

- 日常的に使いこなしておく役立つ便利なツールを知る。
- 受講者間の情報の共有化。他の人の観点を知り、自分の評価の観点との差異を考える。

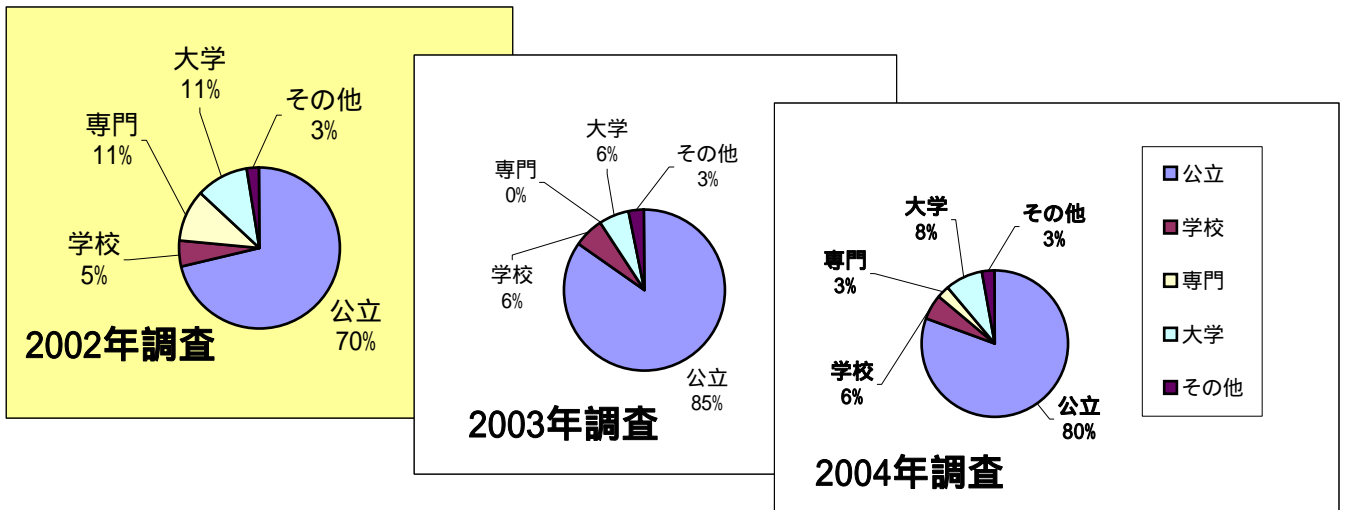
その1 = レファレンスブック

『こいつは使える!レファレンスブック あなたの10冊』(参考調査業務実務担当職員懇談会編、都立多摩図書館・東京都市町村率図書館長協議会、1999年3月)の調査方法を参考にして、今年度も引き続き「あなたのおすすめレファレンスブック」のアンケートを実施。

アンケート回収数: 2004年度(今回の受講者のうち36名)2003年度(受講者のうち35名)  
 2002年度(受講者のうち38名)1999年度(東京都三多摩地区レファレンス担当職員90名)

今年度順位	書名	票数	得票率	2003年度	2002年度	1999年度
1位	国史大辞典	18	51%	6	1	2
2位	日本国語大辞典	16	46%	2	2	3
3位	日本大百科全書	14	40%	1	3	1
4位	現代用語の基礎知識	13	37%	5	4	9
4位	広辞苑	13	37%	5	9	5
6位	世界大百科事典	11	31%	2	6	13
6位	大漢和辞典	11	31%	9	9	9

## ステップアップ研修（2002～2004年）における各年のアンケート回答者の館種別分布



- 3年間（2002、2003、2004年）の図書館員が選んだレファレンスブックの総合ベスト50冊（別紙）
- 類書との相違、特徴はなにか。
- 電子メディアとの関連。

### 4 受講者は何を評価したのか

時間的制約や情報量の制約のなかでも

- ・分野や概略が整理され要領よくまとまっていて、説明しやすい。
- ・ヒット率が高く、調査時間を短縮できる。
- ・索引等の検索手段が使いやすく、すぐに探せる。
- ・内容に信頼性がある。
- ・参考文献や執筆者名、典拠等が明記しており、次の段階に進んだり、案内する糸口が得られる。

### 5 レファレンスブックのガイド - 図書の内容を客観的に判断するために

『日本の参考図書』第4版（日本図書館協会 2002年刊）

国内で刊行された参考図書の注解書誌、明治以降1996年12月まで 収録点数7,033点を収録。

『情報サービス概説』田村俊作編著（図書印刷 東京書籍 1998年刊）

参考図書とデータベースは相互に補完する立場にあり、それぞれの特長に応じた使い分けが必要となる。

（第4章 レファレンス情報源の解題より）

参考：『まちの図書館でしらべる』（柏書房 2002年刊）

### 6 レファレンスブック評価のポイント

『情報源としてのレファレンスブック』6訂版 長澤雅男著（日本図書館協会 2001年刊）

- ※ 範囲の設定、内容の扱い方、項目の選定、配列方法、検索手段（目次、索引の種類や精度）、収録情報の正確さ
- ※ 形態（印刷、挿図、造本）

## 7 媒体や検索方法の多様化と使い分け

書誌索引類や辞書・事典類の電子資料やインターネット等への移行傾向、メディアの変化に対応したツール評価の必要性。

電子メディア

- ・パッケージ系メディア
- ・ネットワーク系メディア

## 8 2004年の受講者アンケート結果 その2 = インターネットの中のレファレンスツールからインターネットアンケート回答者総数：2004年（28名） 2003年（22名）

順位	サイト名	2004年	2004年	2003年	2003年
		票数	得票率	順位	得票率
1位	国立国会図書館	7票	25%	1位	41%
2位	紀伊国屋インターネット仮想書店	6票	21%	3位	18%
2位	Google	6票	21%	2位	27%
4位	Nacsis Webcat	5票	18%	5位	9%
5位	実践女子大学図書館	4票	14%	5位	9%
5位	総務省統計局の統計データ検索ガイド	4票	14%		
7位	法令データ提供システム	3票	11%		
7位	電子政府の総合窓口	3票	11%	5位	9%
7位	楽譜ネット	3票	11%	6位	3%
10位	東京都立図書館	2票	7%	3位	18%
10位	佐賀新聞記事データベース	2票	7%	6位	3%
10位	検索デスク	2票	7%	6位	3%

## 9 利用者ニーズの変化に即応した、レファレンスサービスの展開のために

自館のレファレンスサービスの質問傾向を知る

例：都立図書館に寄せられる質問内容の比率

所蔵所在調査 54% 書誌情報 4% 文献紹介 10%

事実調査 7% 書架案内 14% その他 11% (平成14年度統一事例日調査結果から)

## 10 インターネットを図書館のレファレンスサービスに生かすには

求める情報をどのように探すか

- (1) 目録などのデータベース検索・・・蔵書目録、総合目録、横断検索
- (2) 検索エンジンによる検索
- (3) 案内・リンク集を使った検索

常用検索システムを持つ

自分の使用目的にあわせて、使いなれた、とっさに役立つ検索システムを決めておくこと

## 10 - 1 検索方法

### (1) データベース検索

#### < 図書 >

##### 蔵書目録

例1 国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/>)

例2 東京都立図書館 (<http://www.library.metro.tokyo.jp/>)

##### 総合目録

例1 NACSIS Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>)

例2 国際子ども図書館 (<http://www.kodomo.go.jp/function/somoku.html>)

##### 横断検索

例1 Jcross(情報館)横断検索 (<http://www.jcross.com/bibcrs/bibcrs2mnu.html>)

例2 「東京都の図書館横断検索」東京都立図書館 (<http://metro.tokyo.opac.jp/>)

東京都立図書館のホームページから入る

##### 販売目録

例1 Books.or.jp (日本書籍出版協会) (<http://www.books.or.jp/>)

例2 Bookweb (紀伊国屋書店) (<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>)

#### < 新聞雑誌 >

##### 総合目録

例1 区市町村立図書館新聞雑誌総合目録 (<http://www.library.metro.tokyo.jp/16/16900.html>)

都内区市町村立図書館の所蔵

例2 全国新聞総合目録データベース 国立国会図書館 (<http://sinbun.ndl.go.jp/>)

##### 新聞記事検索

有料データベース(朝日新聞の聞蔵、日経新聞の日経テレコン21、読売新聞のヨミダス文書館、各紙の記事をまとめて検索できるG-Searchの記事検索など)

無料(一部条件つき等)

例1 YOMIURI ON-LINE「読売新聞」(<http://www.yomiuri.co.jp/>)

「YomyClub」の無料会員になれば、過去6ヶ月分の記事の検索が無料

例2 日経goo 日本経済新聞社, NTT-X (<http://nikkei.goo.ne.jp/>)

日本経済新聞社が発行する4紙の見出しの閲覧までが無料

例3 佐賀新聞 (<http://www.saga-s.co.jp/>) 1994年～記事索引を公開

例4 沖縄タイムス シーサー君 (<http://www.okinawatimes.co.jp/>) 1997年～

##### 雑誌記事索引

例1 国会図書館 雑誌記事索引 (<http://www.ndl.go.jp/>)

例2 雑誌の新聞 (<http://www.zasshi.com>) 最新3週間の週刊誌、月刊誌等から60種以上検索可

## (2) 検索エンジンによる検索・・・図書館にとって有効な検索とは？

特定ホームページへの接続を目的として、組織や固有名で検索する

(官公庁、大企業、公益法人等の責任の所在が明らかなサイトを対象)

ある主題における代表的サイトをさがす場合

「主題 and リンク集」といった検索方法で、その上位にあるものが選択できる。

手がかりを得るための検索

インターネット上の検索は情報量が多いが、変化しやすい特性等がある。

利用者に提供する場合は注意が必要(不確実性や不安定性の告知)

### < 検索時の工夫とは >

例1 特定の機関名を速やかに探すために

= Google の I'm Feeling Lucky (検索結果の最高ランクの Web ページが自動的に表示される)

例2 索引のみで、そのページが見つからない = “ページを表示できません” と表示されたら

= Google のキャッシュ (サーバーに保存されているコンテンツ) を利用する

例3 無くなってしまったサイトやページをさがしたい時は

= www.archive.org にアクセスして探す

## (3) 案内やリンク集による検索

総合リンク集や検索案内の活用

図書館を探すための有益なサイト例

・日本図書館協会のリンク集 (<http://www.jla.or.jp/link/>)

・筑波大学の図書館リンク集 ([http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other\\_libs.html](http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other_libs.html))

特定主題を探すために有益なサイト例

・東京大学のインターネット学術情報インデックス

([http://resource.lib.u-tokyo.ac.jp/iri/url\\_search.cgi](http://resource.lib.u-tokyo.ac.jp/iri/url_search.cgi))

・図書雑誌探索ページ 実践女子大図書館 (<http://www.jissen.ac.jp/library/frame/newsearch.htm>)

・Dnavi データベースナビゲーションサービス 国立国会図書館 (<http://dnavi.ndl.go.jp/>)

### 10-2 インターネットホームページ評価の観点

作成者(責任の所在)、作成目的(作成方針等)、内容(正確性、公平性、客観性、更新頻度)

ホームページの構成(デザイン、見やすさ、使いやすさ)、類似サイトとの相違・特徴、他のサイトからのリンク(引用率)など。

### 10-3 他図書館のホームページ、リンク集を研究する

長所、考え方、評価の観点を学ぶ

・地域に根ざしたレファレンスサービスの展開

・リンク集(選定基準の明記)

例 市川市中央図書館情報源リンク基準例

リンク先選定基準（レファレンス業務に役立つ情報を有する「二次情動的サイト」の厳選）

- ・ データベースが構築されていていて検索ができる
- ・ データが集積されていてリストとして通覧できる
- ・ 書籍・論文リストなどがある
- ・ リンクが集積がなされている
- ・ その分野ではポータルサイトといえる

#### 10 - 4 自分なりのリンク集作成のすすめ

ホームページ案内資料を読む＝図書や雑誌、

インターネット上の検索案内や総合リンク集に自分なりの視点を加味する。

代表的なサイトに実際にアクセスしてみる。

自分の「お気に入りのページ」に追加整理する。

各自で記録も作成しておく（エクセル等を利用）

URL、サイト名、作成者名、特徴（使い勝手、長所や短所）、感想、アクセス日付  
サイト内容を確認し、リンク切れや変更箇所を確認する。

#### 11 職員のレファレンスツール活用促進と情報の共有化をめざして

- ・ 身近な日常的仕組み作りの努力・・・自己研鑽を支えるもの

「教えること＝学ぶこと」

「情報の共有化」

ベテランも中堅も新人も、ともに学びあえる環境の構築

#### 12 全国の公立図書館におけるインターネットとレファレンスサービス

#### 13 おわりに